

# CIEC サタデーカフェの取り組みについて

平田義隆\*1・高瀬敏樹\*2・吉田賢史\*3

Email: hiratay@kyoto-wu.ac.jp

\*1: 京都女子中学校高等学校教諭・京都女子大学現代社会学部非常勤講師

\*2: 市立札幌旭丘高等学校

\*3: 早稲田大学高等学院

◎Key Words      ワールドカフェ, オンライン研究会, インフォーマル

## 1. はじめに

コロナ禍になって2年以上が経過し、これまで行っていたような対面での研究会開催は難しくなった。そこで、CIEC 小中高部会では、「インフォーマルで小規模なオンライン研究会」として、2021年4月より「CIEC サタデーカフェ」を毎月第3土曜日に始めることになり、すでに10回以上行った。本稿では、サタデーカフェの様子を始め、これまで取り扱ったテーマや、カフェの運用などについて紹介し、会員の皆様と一緒に今後の活動について考えたい。

## 2. サタデーカフェ開始の経緯

CIEC 小中高部会では、毎年3回の研究会を行っている。各研究会のテーマは多岐にわたるが、基本的には小学校、中学校、高等学校における情報活用に関する教育をテーマにするものが多い。これまで多くの参加者にも支えられ、活発に活動してきたが、2020年度末、コロナ禍により、対面での研究会の開催は非常に難しくなった。そこでCIEC 小中高部会では、対面で集まることができなくても、研究会のようなものが企画できないか議論し、学校が休校している中、他校の先生方がどのように日常を乗り越えようとしているのかについて、多くの先生方と話し合いの機会を持ちたいという要望に応える形で、このCIEC サタデーカフェが開催されることになった。

## 3. サタデーカフェの概要

サタデーカフェの開始にあたり、まずは開催趣旨の策定を行った。小中高部会の世話人で検討を行い次のようになった。

「CIEC 小中高部会では、従来と比べ、小規模でインフォーマルな研究会として、『CIEC サタデーカフェ』を立ち上げることとなりました。内容は小中高に関わる『情報教育』や『情報科学』から、『授業デザイン』や『未来への学び』までCIECに関係するものならどのようなものでも扱います。ZOOMによるオンライン開催ですので、全国どこからでも気軽に参加いただけます。月1回、土曜日の夜に、みなさんと情報教育にまつわるいろいろな話題について気軽に考えてみませんか?」

この趣旨を元に、具体的な開催ルールの検討を行った。まず、このカフェを定期的に開くことを前提とし、それを毎月第3土曜日とした。また、クラブ指導や授

業準備など教員の校務終了時間を鑑み、開催時間を20時から21時と設定した。土曜日の理由として、翌日が日曜日であることが挙げられる。日曜日夕刻の開催となると、翌日からの勤務への影響があると考え、土曜日の設定にし、会の名称も「サタデーカフェ」とした。ただ、参加される方の多くが学校教員であり、公立・私立や学校種も様々であることから、土曜日勤務の方に配慮して20時から1時間だけの実施とした。開始時間が遅いので、食事やおやつなどを飲食しながらの参加も奨励し、趣旨にもあるようにCIECの中では「小規模でインフォーマルな研究会」と位置づけて開催するに至っている。

また、話題を提供してくださるスピーカーを毎回お願いすることとした。たった1時間しかないため、最初の15分間を話題提供に充て、その後の45分間について参加者を交えてのフリーディスカッションとすることにした。

これらを元に、開催概要として次のように定めた。

「定例として、毎月第3土曜日の20:00~21:00に行います。(定例通りでない回を設定することもあります。) また、基本的に各回ともスピーカーによる話題提供15分に加え、フロアとのディスカッション45分で構成する予定です。『学校ではこのような取り組みをしています。』や『授業の実践を聞いてください。』、また『学校でこんなことに困っています。』などテーマの設定はスピーカー次第です。参加者の皆さんでスピーカーの話を聞きながら、いろいろな意見を出し合い、お互いの教育力向上を目的とする研究会です。」

ここにもあるように提供される話題については、教育に関わることであればどんなものでもよく、多くは、提供者ご自身の実践を元に話される構成が多い。

さらに、オンライン(ZOOM)での開催ということで、小中高部会でZOOMアカウントを1つ取得し、それをホストとして毎回カフェを運営している。基本的には参加者の方々に毎回改めてエントリーしていただいているが、一度参加していただいた方には、2回目からは気軽に参加していただけるように工夫をし、気軽に参加できる雰囲気を作っている。

## 4. これまでの経過

2021年4月の開始から2022年6月まで、合計13回のカフェを実施した。ここでは各回のテーマと話題提供者について紹介したい。(話題提供者については敬称

略としている。)

- ・第1回：2021年4月17日(土)20:00～21:00  
テーマ：ICT活用実践事例集「まなびの旅」の制作について  
話題提供者：平田 義隆(京都女子中学校高等学校)
- ・第2回：2021年5月15日(土)20:00～21:00  
テーマ：BYODへの長い道のり  
話題提供者：八百幸大(早稲田大学高等学院)
- ・第3回：2021年6月19日(土)20:00～21:00  
テーマ：公立高校でのGIGAスクール構想実現への取り組み  
話題提供者：高瀬敏樹(市立札幌旭丘高校)
- ・第4回：2021年7月17日(土)20:00～21:00  
テーマ：小学校におけるプログラミング教育の取り組み～高校情報Iへどうつなげるか～  
話題提供者：森棟 隆一(白百合学園中学高等学校)  
壁谷 祐亮(白百合学園小学校)
- ・第5回：2021年9月18日(土)20:00～21:00  
テーマ：高校生が「海女」の魅力のVR映像を制作・発信するまで  
話題提供者：黒田 昌志(三重県立鳥羽高等学校)  
水野 拓宏(株アルファコード代表取締役CEO兼CTO)
- ・第6回：2021年10月16日(土)20:00～21:00  
テーマ：主婦と変人が創り出す新たな学びとは  
話題提供者：河口 紅(NPO 法人さんびいす理事長・兵庫県立大学非常勤講師)  
大脇 巧己(NPO 法人さんびいす事務局長)
- ・第7回：2021年11月20日(土)20:00～21:00  
テーマ：プログラミング教育における、はじめの一步～子どもたちの現在と未来を考えた教師の可能性～  
話題提供者：慶徳 大介(3rdschool)
- ・第8回：2021年12月18日(土)20:00～21:00  
テーマ：学校教育でのクリティカルシンキング、教科教育、生活指導、プロジェクト(総合)  
話題提供者：若林 靖永(CIEC 会長、京都大学経営管理大学院経営研究センター長)
- ・第9回：2022年1月15日(土)20:00～21:00  
テーマ：町の高校生が考える地域の魅力化  
話題提供者：石谷 正(北海道霧多布高等学校)
- ・第10回：2022年2月19日(土)20:00～21:00  
テーマ：ICTの3文字の中で大切なのはどれでしょうか？  
話題提供者：伊藤 正徳(聖徳学園中学高等学校校長)
- ・第11回：2022年4月16日(土)20:00～21:00  
テーマ：デマ・フェイクニュース・ディスインフォメーションそしてネタ  
話題提供者：山田 夕子(社会医療法人愛仁会)
- ・第12回：2022年5月21日(土)20:00～21:00  
テーマ：GIGAスクール構想の現場より／GIGAスクール構想の現状と課題・今後について  
話題提供者：大橋 剛(札幌市立大谷地小学校)
- ・第13回：2022年6月18日(土)20:00～21:00

テーマ：情報科 新カリキュラムについて

話題提供者：柴田 直美(日本女子大学附属高等学校)

これまで13回にわたり、本当に多くの方々にご協力をいただき、毎回充実したカフェを運営できている。この場を借りて話題提供者の方々に御礼を申し上げます。

## 5. サタデーカフェの運営

これまで、全回にわたり、司会・記録ともに部会長の平田が行ってきた。特に大きな問題もなく運営できたと思っている。

先述の通り、毎回1時間のうち、約15分間は話題提供で、参加者が自由に発言できる時間は約45分である。毎回15～20名程度の参加者で、できるだけ全員に発言いただくとうると1人当たりの発言時間はかなり短時間になる。そこで、オフィシャルには1時間のカフェとしているが、その後、出入りも発言も自由に行えるフリーディスカッションの時間を約1時間とっている。Webに掲載されているオフィシャルな報告書を作成するために最初の1時間は録画ディスカッションの内容を録画機能により残している。フリーディスカッションの時間は録画していない。ところが、このフリーディスカッションの時間におけるディスカッションが充実している回が多く、最後まで録画したかったと思うことが多い。そのようなこともあり、オフィシャルの時間を過ぎて、そのまま参加して下さる方が非常に多い。

## 6. 話題提供者の人選

話題提供者の人選については、小中高部会世話人からの推薦で決めていることが多い。対面で行っていた時代に研究会などに参加していただいた方を始め、小中高部会の世話人、その世話人の関係の方など多方面の方々をお願いをし、2021年12月の第8回についてはCIEC 会長である若林先生も話題を提供していただいた。

今後も、さまざまな分野の方々に話題提供いただけるように声かけをしていきたいと考える。

## 7. サタデーカフェの広報

会の広報活動については、カフェの最後に、次回のテーマについて告知を行ってきている。毎回、1ヶ月前にはある程度の話題も決定しているように準備をしている。さらに、事務局にお願いし、会員メールにて周知を行っている。毎回、会員メールが送られるタイミングでの申し込みがあるので、これについては一定の成果があると考えている。開催の約3週間前と約1週間前の2回、会員メールを送っているの、ギリギリまで都合が分からない方でも1週間前の周知メールをみて、申し込みをして下さる方も多。今後は、CIECのTwitterなども併用しながら広報を行っていければと考えている。

## 8. サタデーカフェの雰囲気

最初にも述べたように、サタデーカフェは「小規模

でインフォーマルな研究会」という位置づけで行っていることもあり、通常の研究会と比較しても、あまり堅苦しくなく、気軽に参加いただけるものを目指している。司会もそれを意識して運営を行っているが、回を重ねるごとに参加者の方も雰囲気をつかんで下さり、さまざまな視点から積極的に発言して下さる様子もうかがえ、とても落ち着いた雰囲気の中で楽しく運営ができています。また、お互いの教育力の向上を目的にしていることもあり、アカデミックな話題が展開されることも多い。そういったことが功を奏して、回を重ねるごとに、毎回参加して下さる方も増え、また新しく来て下さる方も毎回のようにおられ、とても活気にあふれていると感じている。今後も、新しく参加いただける方の開拓を行いながら、一度参加いただいた方には次回も参加いただけるよう、工夫をしていけたらと考えているところである。

## 9. おわりに

開始当初、本当に参加者の方が集まって下さるのか、不安しかなかったが、いざ実施してみると、多くの方が参加して下さり、心をなで下ろしたことを今でも鮮明に覚えている。これまで対面での研究会しか経験がない状況だったが、コロナ禍のおかげで逆にオンラインでの研究会がニューノーマルとなり、違和感なく運営できていることには我々自身驚いている。対面での研究会では難しかったが、オンラインで行うことで、日本全国幅広く同じ時間に多くの方々と共通の話題についてディスカッションできることを実感し、逆に対面では味わうことのできない良さについても認識できた。中には、通勤電車の中からカフェに参加下さる方もおられ、この時代、場所を選ばず研究会に参加できるようになったことに改めて驚かされた。

開始して約1年半、ようやく軌道に乗ってきたように思う。課題としては、話題提供者の人選について今後うまく機能するかどうかである。各方面で活躍されている方々に積極的に声をかけながら決定できればと考えている。今後も多くの方々に参加していただき、CIEC サタデーカフェをますます発展させ、充実した時間を皆さんにお届けできるよう CIEC 小中高部会として研鑽を重ねたいと考えているところである。

## 謝辞

CIEC サタデーカフェの運営にあたり、多くの参加者の方々をはじめ、毎回有意義な時間を創出していただいている話題提供者の方々に改めて御礼を申し上げます。さらに、この会の運営はCIEC 小中高部会世話人の先生方のお力なしでは到底なしえないものである。心より感謝申し上げますとともに、世話人の先生方の氏名を掲載させていただき(敬称略)、謝辞に代えさせていただきます。

石谷 正 (北海道霧多布高等学校)  
尾池 佳子 (八王子市立松枝小学校)  
大木 誠一 (元神戸国際大学附属高等学校)  
大橋 真也 (千葉県立千葉中学校・千葉高等学校)  
澤田 あゆみ (立命館高等学校)

柴田 直美 (日本女子大学附属高等学校)  
武沢 護 (早稲田大学高等学院)  
橋 孝博 (早稲田大学高等学院)  
中西 通雄 (追手門学院大学)  
平井 俊成 (日本女子大学附属高等学校)  
三岡 恵子 (聖徳学園中学・高等学校)  
森棟 隆一 (白百合学園中学高等学校)  
八百幸 大 (早稲田大学高等学院)

## 参考文献

(1)香取一昭、大川恒 『ワールドカフェをやろう』 日本経済新聞出版社、(2017)